

企業を元気に、情熱系  経営マガジン

2019.1

VOL.
50

●特集

晴海株式会社／株式会社ジョイントメディア

デザインのチカラで、大きく成長！

●「継ぐ」極意 ⑤

単品加工の強みを活かしながら
新しい時代の波にも乗っていく

太田鉄工所 太田 侑吾さん

●堺のすご腕 ② ③

独自の油圧ポンプ技術で、世界へ
株式会社をくだ屋技研

●SAKAIの傑作 ①

アトピーで悩む人からの支持
低刺激性シャンプー

モアコスメティックス株式会社

2018年5月に経済産業省・特許庁から有識者による報告書「デザイン経営」宣言が発表されました。「デザイン経営」とは、デザインの力をブランドの構築やイノベーションの創出に活用しようとする経営手法のこと。これまでデザインに対する意識の低かった日本企業の国際競争力を高めることが狙いです。今号は、堺市内でデザイン力を武器に事業を成長させている2社をご紹介します。

商品開発に魅力を感じて起業 新たな技術の蓄積は人材から

かつて松山浩二社長が、プラスチックの成型加工の企業に勤めていた頃に参加したという商品開発をテーマとした勉強会。堺市の老舗線香メーカーや自転車部品メーカーの経営者と席を並べて学ぶなかで見聞が広がり、自ら起業するきっかけになったといいます。

「まだ20代前半でしたが、新しい製品を企

優れた機能性を備えてこそその デザインを追求

晴海株式会社 / 代表取締役 松山浩一

画開発するということの魅力に気付かされたんです。同じ成型加工業を営んでいる友人と晴海株式会社を立ち上げました。30年前のことです」。

当初は得意とする樹脂製品を中心とした製品開発を行っていましたが、これまでにない極小サイズのラジコン玩具の開発依頼をきっかけに、電気回路やマイコンのソフト開発などにも携わるように。松山社長は「構造的にどれほど難しいことか、これまでに経験がなかったから恐いものなりました。ノウハウのない依頼なら、その道のエキスパートを揃えれば良いと考えて人材を採用してきましたし、そうして今では、遊技機やアミューズメント機器、玩具、美容機器、生活日用品とジャンルにこだわらず、幅広い領域で製品の企画開発から製造までを行っています」とのこと。次から次へと持ち込まれる開発依頼のハードルが高くなる中で、同社の企画開発力もまた磨かれてきたと言います。

新しいものを創り出す企画開発力と ものづくり技術の両輪を備えて

では、同社にとってデザインとは何なのでしょうか。松山社長に尋ねると「売れる商品づくりにおいて、デザインが最も重要」と答えますが、そのデザインとは、単なる見た目の格好良さや美しさではないのだとも言います。

例えば、昨年11月に発売されたばかりの



量産するための工場を中国にも数社抱えているが、決して外注任せにせず、品質とコストの管理を徹底できるよう「工場を育てている」という

美容器（左下写真3点の左）。これまでのシェーバー型と異なる全く新しいデザインが注目されています。企画開発に携わったコスメティック営業課の土岐純一課長は「首、フェイスライン、目元、さらにはボディのウエスト、太もも、ふくらはぎとそれぞれの部位の範囲やカーブにあわせてフィットするようデザインしました。優れた効果を発揮する機能性を備えてこそ「デザイン」だとインダストリアルデザインの役割を語っています。この美容器の企画開発にあたって、人の身体をよく知る整体師に取材したことは、ユーザーの使い勝手、使い心地までもデザインとして捉えている所以なのでしょう。

「新製品についてはもちろん、お得意先企

業からの『このようなものを』というオーダーがあり、納期や予算でも制約を受けるわけですが、そのなかでお客様が期待されている以上のものを提案したい」とデザイン室の生田恒平アートディレクター。同社がデザインを含む企画開発に注力していることは、晴海の社員数27名のうち17名が開発に携わっていることからわかります。

そして、何よりもこうして創り出されたデザイン設計を実際の製品に落とし込むことのできる高いものづくり技術を備えていることも、同社の強みなのです。『とはいっても、最初から機能的に可能かどうかということも考慮しながらデザインをする、面白いものではなくなる』と土岐課長。企画開発担当と製造設計担当という両輪が、時には衝突しながらせめぎあっているゆえに、他社には真似のできない企画開発力を発揮しているといえそうです。

黒子のエキスパートとして 企画開発に特化したものづくりを

テレビCMにも流れている商品などを数多く手がけてきた晴海ですが、全てOEM。現在のところ、自社ブランドを立ち上げるつもりはなく、「目指すは、黒子のエキスパート」と松山社長は言います。

「販売メーカーとなれば、お客様相談窓口などさまざまな部署を作る必要が出てきます。当社はものづくりにだけ集中してい



美容器からアウトドア用LEDランタン、さらにはオフィス向けコーヒーマシンのドリップ販売機まで幅広い製品の企画開発に携わっている



企画開発そのものが同社の「売り物」。特許権は依頼主の得意先企業が取得し、競合しない範囲で優先的に使用することを認めてもらっているという

晴海株式会社

代表者名／代表取締役 松山浩一
本社／堺市美原区多治井27-1
TEL／072-361-7762(代)
設立／1988年創業 1991年設立
資本金／1,000万円
従業員数／27名(グループ全体で60名)
事業内容／電子機器、遊技機、アミューズメント機器、美容機器、生活日用品、電子玩具、キャラクターグッズ、アクセサリなどの企画・開発設計・製造販売。各種プラスチック製品の成型、塗装、印刷など二次加工の企画、開発設計、製造販売。DTPデザイン、WEBデザイン業務。下水処理プラント用樹脂製品の製造販売。
<http://www.harumi-net.co.jp/>

たい。そのために量産のための工場も自前で持たないファブレス経営です。企画開発した商品が大ヒットという形で多くの消費者に受け入れられれば、お得意先が評価してくださり、次の依頼につながっていく。そこに我々の喜びがあります」。

脈略がないといえるほど、これまで企画開発してきた製品は多岐にわたっていますが、全て同社が得意とする「樹脂」「電気回路」「マイコンソフト」「デザイン」を活かしてきたもので、最近では畜産業界向けのIoTシステムや、太陽光発電のソーラーパネルの自動洗浄装置の開発に携わったこともあり、今後は将来性の高い分野でも自分達の技術を活かした製品開発ができるのではと考えています。

**「森に降り立った宇宙船」の社内で
社員の自由な発想を育む**

エントランスで大きなアクリウムに迎えられる、社内を案内されれば、摩訶不思議な空間が広がっていました。テーマは「森に降り立った宇宙船」だそうです。創業11年目の株式会社ジョイントメディアは、WEBシステム

の開発などの事業を展開しており、身近なところでは、LINEスタンプとして発売された「いやしましゅまる」が20万以上のダウンロード数を誇る大ヒットとなっています。

「創業時は、IT系の広告代理店としてスタートしましたが、社員がやりたいと言うことを、事業部に任せて、自由に実現させてきた結果、事業領域がここまで広がってきました」と岡本光平社長。ユニークなところでは、エンタメ事業部のサービスは、堺市内に

CASE

未来感のあるホームページで 企業や人をつないで堺を元気に

株式会社ジョイントメディア / 代表取締役社長 岡本光平

開業しているアニメバー「ひみつきち」です。「IT技術とリアルな店舗を組み合わせたら、何か面白いことができるんじゃないかと始めましたが、思いがけないことに、アニメファンの中でも、元々オンライン環境であり外にでなかった方達もこういったアニメを主体としたオフラインの現実世界に足を運ぶ機会が増えたと思いますね」。

こうした若い人たちが惹きつける魅力として、同社が展開するコンテンツのデザイン力が挙げられるでしょう。例えば、ジョイントメディアが自社をアピールするために制作・運営しているオウンドメディア「WaQWaQUEST」では、IT技術の活用術のほか、自社のトピックスをとっても奇抜なレイアウトと、ゲーム風のポップな表現で発信しており、新卒社員の求人広告を出した時には、この「WaQWaQUEST」を見た人たちから350人ほどのエントリーがあったといいます。

**人を驚かせるような仕掛けや
SEO対策も含めてのデザイン**

メインの事業はシステム開発だという同社が、ホームページの制作を手がけ始めたのは比較的最近のことです。「堺市に住む人間として、この街がもっと魅力的になればいいなと思うのですが、ものづくり産業や観光産業においても、せっかくのホームページが活かしきれていない。そこで、堺の“街づくり”に参



スタイリッシュなインテリアデザインでまとめられている役員室

加したいという思いもあって、例えば、堺で事業を行う企業のIT化をサポートするサービス『堺IT推進 つくろう未来法人』など、最新技術を投入した次世代型ホームページづくりをスタートさせたんです」。

次世代型ホームページとは具体的に、ブランディングや求人、求職者対応などを複合的に機能させるサイトで、サイドに現れるパネルで求人を訴求したり、動画を埋め込むなど、動きのある見せ方を行っています。サイトにアクセスして、ページが開かれるまでに現れる「NOW LOADING」の表示も運営者のカラーにあわせて工夫しているほか、スマートフォンで閲覧してもパソコンと遜色ない画面になるようシステム開発に注

力しているとのこと。

そこでのデザインとは、検索順位を上げるためのSEO対策をはじめ、人の興味を惹きつけたり滞在時間を延ばしたりするさまざまな仕掛けを含めてのデザインだと考えているようです。清水英弘副社長は「要は人を驚かせることが好きなんです。他がまだやっていないようなゼロから何かを創っていくことが楽しいし、当社の得意としているところです」と語っています。

企業や人をつないで堺を面白い街に 堺市民球団の立ち上げにも一役

では、ゼロから何かを生み出す同社のデザイン力を高めるために何を大切にしているのかと尋ねると、「各スタッフの自分の得意としているところを育ててあげたい。好きなことには延々と頑張れるでしょう?」と岡本社長。「人材育成は基本的に各事業部長に任せており、当社にはマニュアルも研修もありません。一人ひとりの個性を大切に、やりたいようにやらせています」。先述のオリジナルキャラクター「いやしましゅまろ」も、一人の女性社員の「自分が癒されたい」という思いをスタートに事業化されたものでした。

今後は、民間企業では難しいプロジェクトを複数の企業や研究機関で進めていけるような「場作り」を担っていきたいと岡本社長。同社に事務局を置く堺市民球団「堺シユライクス」もそうした考えで取り組んでいる「



「堺IT推進 つくろう未来法人」
堺の企業のIT化をサポートすることで企業の成長を促し、ひいては堺全体の活性化に貢献しようというメッセージを発信している「堺IT推進 つくろう未来法人」 <https://mirai-houjin.jp/>



一昨年に改装したという社内は、遊び心にあふれている

つです。「同球団については、堺市に独立リーグのプロ野球球団を作ろうという当初のコンセプト作りから関わっており、市民のみんなが機運を高めるため、運営会社名を『株式会社つくろう堺市民球団』としたり、トップ画面でカウントを配したりするなどの仕掛けを作ってきました」と清水副社長。今後はWEB上で選手一人ひとりのブランディングに取り組みむ予定だといいます。このような新しい手法が着目され、他球団からも依頼が入っているとか。

「いろんな企業や人がつながって、この堺をもっと面白い街にしたいということでは、いつか建物の設計からやってみたいとも思いますが」という突拍子もないように思える岡本社長の言葉も、決して絵空事で終わらせないポテンシャルを同社は秘めているように思えました。

株式会社ジョイントメディア

代表者名／代表取締役社長 岡本光平
本社／堺市堺区市之町東3-1-10
OSセンタービル6F
TEL／072-282-7878(代)
設立／2008年創業
資本金／300万円
従業員数／60名
事業内容／WEBシステムの設計・開発・保守、ゲーム制作会社向けのイラスト受託制作、オリジナルキャラクターの企画・開発・商品化、サウンドメディア「WaQWaQUEST」の運営、サブカルチャーに特化したイベントなどの運営
<https://www.joint-media.co.jp/>

「継ぐ」 極意

営業主任
太田 侑吾さん

大学卒業後は医療機器メーカーで3年ほど営業職に携わっていたという太田侑吾さん。太田鉄工所に入社したのは昨年の6月です。太田勝久代表が「小さい頃からものづくりには興味を示さない子だったので、もしかすると家業は継がないかもと思っていました」と言いますが、侑吾さんは小学6年生の文集に、将来の夢として「会社を継ぐこと」と書いていたとか。「そう書けば、父が喜ぶと先生に入れ知恵されたんですよ（笑）。実際に決心したのは、最近のことです」。

単品加工中心の同社には、難削材や高度な加工技術が必要な注文が多いといいます。一つひとつ異なる案件に、できるだけ早く見積もりや納期を算出しなければなりません。ものづくりの現場に入ったばかりの侑吾さんにはまだ荷が重く、社長や専務の担当。まずは生産現場で二通り、当社のものづくりを習得したのちに、経営の勉強はそれから」と語っていますが、一方で太田鉄工所の次代を担うという想いは強く持っており、ものづくりの自動化がますます進行するなかで、同社においても一部、夜間の無人運転を取り入れてはと構想しているほか、SNSの活用など、もっとITを駆使して自社の強みをアピールしていきたいと考えています。

さらに、「オーナー経営者に現場の社員は声をあげにくい。当社のような規模であっても、中間管理職が必要かなと思っています。社員とその家族の幸せを大切に考えてきた社長の方針は守り続けていきたい」と語る侑吾さん。何を語らずとも、伝わるべきことはちゃんと伝わっていたのかと太田社長は嬉しそうに笑っていました。

単品加工の強みを活かしながら 新しい時代の波にも乗っていく

太田鉄工所

堺市中区榑葉162-4 TEL/072-230-5591

1969年の創業。マシニングセンターやNC旋盤などで精密部品の加工を行っている。製品の85%が単品加工。アルミやSUS、チタン、各種ハイス、ソフトセラミックといった難削材をはじめ、多種類の材質に対応できるのが強み。2020年に法人化の予定。
<http://www.ota-smile.com/>



堺の伝統を未来へ。

堺市の伝統産業に従事する、若手職人を紹介します。



刃先を頻繁に取り替えながら、昆布の表面をギリギリまで薄く削るのが熟練の技。



薄く削られたところ・おぼろ昆布の美しさは、手作業ならではのもの。



長谷川優さん

昆布の手すき職人として独立の道も

昆布が堺の特産品となったのは、江戸時代に北前船の西廻り航路を通じて、北海道の良質の昆布が直接、堺に届けられていたことに由来するもので、さらに堺の優れた刃物技術と融合し、昆布の表面をすく「おぼろ」や「とろろ」の加工技術が発達しました。

今では、この手すき職人を抱える昆布加工業者は数軒のみとなり、職人の高齢化も進んでいます。そうした状況に危機感を抱き、熱心に若手職人の育成に取り組んでいるのが郷田商店で、現在は3人の職人が昆布の手すきに携わっています。郷田光伸社長は「昆布をすいた後に残る白板昆布はバツテラの材料で、手すきの昆布からしかとれません。手すきの技術を継承することが、大阪の食文化を守ることに繋がっているんです」と語っていました。

郷田商店で手すき職人として12年のキャリアを持つ長谷川優さんは、「最初から職人になろうと思って入社したわけではなく、こんな仕事もあるよという感じで、出荷などの業務が終わったあとに、50年以上のベテラン職人さんに教わり始めました。最初は簡単そうだと甘く見てケガをし、その悔しさから真剣に取り組み始めましたね」と話しています。

ギリギリまで薄くすくための力加減などは、毎日の作業の中で自ら習得していくほかはないと長谷川さん。「そしてある日、ふっと気づいたら、感覚をつかんでいるものなんです」。

覚えなければならないのは昆布をすく

ことだけでなく、刃物の刃先を曲げる「アキタ」という作業も自分でできるようにならないといけないとか。「昆布を引つ掻くようにして削るため、刃先をわずかに曲げるんですが、その曲げ加減は、職人それぞれで手の長さや力加減が違うので一様ではありません。15分も昆布を削ると、この引つかりがなくなってしまうので、一日中、刃を研いでアキタをいれるのを繰り返している感じです。このアキタを習得するのが難しく、最初の頃は1日を費やしたこともありました」と言います。

今では若手2人の指導も担う長谷川さんですが、後継者が少なくなっている現状について「職人の魅力、仕事の意義について、業界側からももっとアピールすべきなんじゃないかな。僕自身、入社するまで伝統的なおぼろ昆布がどのように作られていることも、手すき職人がこんなに面白い仕事だとも知りませんでした。いつかは一人親方として独立することが夢です。自分の腕一つでやっていけることにやり甲斐を感じています」と語っていました。

取材協力
株式会社郷田商店

堺市堺区市之町東 5-1-23
☎ 072-222-6688

技能承継実践塾 STEP3 修了認定式を開催しました

技能承継実践塾オフィシャルサイト <http://ginouken.com/SAKAI30/OfficialSite.html>

技能承継実践塾は、3つのSTEPで昨今の中小製造業において課題とされている技能・技術・ノウハウの承継の仕組みの構築を支援すると共に、ものづくり現場のマネジメント人材の養成を図る講座です。

平成30年度に実施した技能承継実践塾STEP3（技能伝承の実践編）では、4月～12月の9ヶ月間、平成29年度に実施したSTEP1（技能伝承概念編）、STEP2（技能伝承の基本編）で学んだ技能承継の手法をベースに、オリジナルカリキュラムに沿って、企業が保有する価値を生む暗黙知を形式知化するべく独自の技能承継の仕組みづくりを実践してきました。

今回は、その取り組みを推進し、主軸製品である遠心分離機の製作工程で技能承継の仕組みを立ち上げた(株)松本機械製作所様(<http://www.mark3.co.jp/>)を堺 技術・技能承継モデル企業に認定しました。

また、仕組みづくりのカリキュラムを修了された同社の奥井 茂昭様を堺 技術・技能承継マイスターとして認定し、併せてSTEP3での取り組んだ内容とその成果について発表いただきました。

今後、奥井様には、当センターのセミナーを通じて技能承継の仕組みづくりの取り組み支援のご協力をいただきます。

お問合せ

公益財団法人堺市産業振興センター 経営支援課
TEL 072-255-6700 / Email keiei_shien@sakai-ipc.jp



取組報告会



修了認定式

さかい健康医療ものづくり研究会

会員募集中

堺市内の中小企業が持つ技術シーズと健康・医療・介護・看護・リハビリ分野の現場ニーズを医工連携コーディネーターがつなぎ、現場で使える製品開発などを支援します。

対象となる方：健康・医療・介護・看護・リハビリ分野へ参入を希望する（参入している）堺市内の中小企業者

研究会活動：●ビジネスマッチング

医療現場担当者、医療機器製販業者等とのビジネスマッチングを実施し、求められる機器の開発、製造、改良等につなぎます。

●セミナー

大学や病院の先生、介護事業者、医療機器製販業者などの方から、現場で求められるニーズをご講演いただきます。

●医療現場見学会

堺市内の医療現場を実際に見学し、医療関係者より現場のニーズを紹介いただきます。

●分科会

セミナーや見学会などで提示されたニーズに対して、開発意欲のある企業を組織化し、機器の開発、改良に取り組みます。

●医療系展示会への出展支援 他

お問合せ

公益財団法人堺市産業振興センター 経営支援課
さかい健康医療ものづくり研究会事務局 TEL 072-255-6700



第3回分科会（11月14日開催）



医療現場見学会（12月12日開催）

堺注染職人養成道場を開講中

当道場では、注染技法の技術継承者の育成を目的に開講しています。

堺市の注染業界における職人需要の高まりを受け、「注染職人をめざす方」や「ものづくりに携わる意欲のある方」に対して一定期間の研修を行うことで、注染技法の技術継承者を育成し、雇用へつなげることを目的とします。

今後、基礎研修終了後、次のステップ（実技研修）に進み未来の注染職人を目指します。



座学研修の様子



技術研修の様子

平成30年度「堺優良従業員・堺技能功労者表彰式」 — 企業・地域経済発展など功績のある141名を表彰 —

10月11日(木)、堺市産業振興センターイベントホールにおいて、「平成30年度堺優良従業員・堺技能功労者表彰式」が開催されました。「堺優良従業員表彰」は、堺市内の事業所等に勤務する従業員で、特に企業の発展に貢献があった方々をより広く顕彰し勤労意欲の向上に資すること、また「堺技能功労者表彰」は堺市内で功労顕著な技能者の社会的・経済的地位と技能水準の向上を図ることを目的として、堺市と堺商工会議所が共催で、毎年実施しているものです。

今年は141名(84事業所)が栄えある表彰を受け、「永年表彰」「功労者表彰」については、前田堺商工会議所会頭から、「産業ルネサンス表彰」「堺技能功労者表彰」については、竹山堺市長から、それぞれ市長・会頭連名の表彰楯が授与されました。

各部門別表彰内訳(順不同・敬称略)は以下のとおりです。

《堺優良従業員表彰》133名

◆永年表彰 92名

対象：勤続10年以上、勤続20年以上、勤続30年以上、勤続40年以上(以降10年毎)

◆功労者表彰 37名

対象：勤続年数を問わず、特に功労があった従業員

◆産業ルネサンス表彰 4名

対象：新商品・新サービスの開発、生産・環境分野での技術開発等、独創的なアイデアや新しい手法等を考案することで、地域経済の再生・発展に貢献した従業員またはグループ

受賞者：濱崎 省治(株式会社クボタ 堺製造所)、福村 直己(日本フッソ工業株式会社)、向田 敏雄(株式会社クボタ 堺製造所)、脇谷 肇(ケイ・エイチ工業株式会社)

《堺技能功労者表彰》8名

対象：堺市域の産業振興及び業界全体の振興・発展に貢献している功労顕著な技能者

受賞者：飯島 真一(飯島電気株式会社)、今津 道雄(今津硝子店)、入江 廣幸(ヘアーズインフォルム・アーツ)、國澤 治美(花と緑の葛城園)、多田 雄介(日本料理 大金楼)、富田 和弘(合名会社東芳堂)、八上 武幸(八上松竹堂)、山塚 光雄(山塚刃物)

受賞者氏名等詳細につきましては、堺市ホームページ下記アドレスをご覧ください。

https://www.city.sakai.lg.jp/sangyo/careerweb/kigyo/saiyo_techaku_ikusei/hyoshoshiki.html

貸会場のご案内「イベントホール・セミナー室・会議室」

イベントホールをはじめ、コンベンションホール、大小会議室、セミナー室、小ホールなど、幅広く対応可能な14会場をご用意しています。会議、研修会、講演会、展示会、パーティなどにご利用ください。

【利用時間】9:00~21:00

【休館日】年末年始(12月29日~翌年1月3日)

【駐車場】約230台(無料)

【最寄り駅】中百舌鳥(なかもず)駅から徒歩約300m

堺市産業振興センター 貸会場お問合せ先

TEL 072-255-0111 センターホームページ(<https://www.sakai-ipc.jp/>)



イベントホール（ホール形式）



セミナー室4（スクール形式）

中小企業を
全力応援



公益財団法人

堺市産業振興センター

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

スマートフォンやタブレットで読める!

さかいIPCプレス デジタルブック配信中

CHECK

無料の専用アプリ、ブラウザでも閲覧OK!

▼ 便利な機能がいっぱい! ▼

10言語対応

[日・英・中(簡体)・中(繁体)・韓・タイ・ポルトガル・インドネシア・スペイン・ベトナム語]

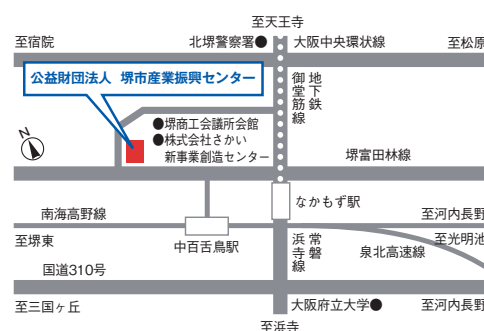
文字ポップ

アップ機能

本文音声

読上げ

※ベトナム語は音声読上げ機能には対応していません。



◎南海高野線中百舌鳥駅より約300m◎地下鉄御堂筋線なかもず駅より約300m※駐車場は、隣接の来客用駐車場(無料)がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5

TEL.072-255-3311(代) FAX.072-255-5200

<https://www.sakai-ipc.jp/>



得意の物流機器で培った技術力を活かしたトレーニング用足踏み車いす「Joyfum」(左)をきっかけに、同社への新たな挑戦が始まっている。

長期的視点で市場を見据え、社員とともに事業の成長を目指す

今後の事業展開について、奥田社長は大きく2点「医療・福祉分野への進出」と「グローバル化」を掲げました。福祉関連でいえばすでに、関西大学と共同開発したトレーニング用車いす「Joyfum」を発売しており、現在は、「介護の現場で人を軽く楽に運ぶ、動かす」



以前に実施した「従業員満足度調査」に基づき、さらに従業員の「QOL(人生の質)」の向上を目指して、労務規定や人事考課制度を見直したという。

の技がそれをクリアしてきました。

そして、優れた「改造対応力」。例えば半導体製造工場のクリーンルームのような特殊な環境で使用する機器に、1台からでも対応するカスタマイズ技術は、同社が長年に蓄積したノウハウがあるからこその強みでしょう。

「弊社の信条は、『常に社会に貢献する企業でありたい』。では、何で貢献できるかといえば、『重たいものをいかに軽く、楽に運ぶか』です。かつては屈強な男性しかいなかった現場で、女性やシニア世代、さらには外国人や障害者の方も活躍できる時代に向けて、さらに研究開発を進めていきたいと考えています」と奥田社長は語っています。

介助用機器の開発を進めているほか、医療現場でも重い機器の運搬で貢献できると考えています。

海外展開については、同社ではいち早く1994年にマレーシア、2006年に中国に生産拠点を設け、現在はそこを拠点にASEAN諸国やヨーロッパへの販路も開拓しています。すでに、中国自動車メーカーから委託されたアフターサービス網に配備するバッテリー交換設備の開発という大型プロジェクトも進んでいるとか。若き頃に、この両国への進出に関わった奥田社長は「将来は日本を含む3カ国間で連携した『グローバルシェアの拡大』を行いたい」と構想しています。

5年後、10年後にどうありたいか。中期経営計画で長期的ビジョンを描くをくだ屋技研ですが、これからも守るべきは、脈々と継承してきた本流から離れないことだと奥田社長。社員の人生の充実につながる会社の成長を目指しています。

株式会社をくだ屋技研

代表者名／代表取締役社長 奥田 智
本社／堺市美原区丹上263
TEL／072-362-2111(代)
設立／1934年創業 1954年設立
資本金／9,650万円
従業員数／117名
事業内容／荷役運搬機器および環境機器の製造販売
<http://www.opk.co.jp/>





冬場でも冷たくない樹脂製のハンドルをさらに持ちやすく、軽さと使いやすさを追求した結果、2007年グッドデザイン賞を受賞した「キャッチパレットトラック」。

独自の油圧ポンプ技術で、世界へ

株式会社をくだ屋技研

自社ブランドとOEMの両方で 技術力にさらに磨きをかけて

1934年の創業以来、株式会社をくだ屋技研が一貫して磨き続けてきたのはポンプ技術です。現在は、同社が最も強みとする油圧ポンプをベースとして、キャッチパレットトラックやパワーリフターなど、主に物流機器の製造・販売に携わっており、なかでもハンドリフトについては、国産メーカーの先駆けとして、国内シェア50%を誇っています。

そうした自社技術への自信、そして誇りは、90%以上の製品を“O.P.K.”という自社ブランドで展開していることからもうかがえます。奥田智社長は「創業以来こだわってきた自社ブランドですが、完成品メーカーであったがゆえに、これまでに何度も遭遇した経済危機を乗り越えてこられたと思っています。一方、OEM製品については、納入先の大手メーカーさんの技術力が高ければ高いほど、溶接一つにしても要求されるレベルも高く、これに対応してきたことで弊社の技術力

が磨かれてきたといえます」と語っています。

特殊な環境での使用にも応える 高いカスタマイズ技術

同社のポンプ技術の優位性についてはまず、鉄やステンレス、アルミなど異なる素材に対応できることが挙げられます。材質によっては歪みが出たり、硬くて穴をあけることも難しかったりするそうですが、同社が営々と継承してきた熟練

SAKAIの傑作

アトピーで悩む人からの支持 低刺激性シャンプー

「バーデンス」のブランド名で、主に美容師室やエステサロンで販売されているモアコスメティックス株式会社のスカルプシャンプートリートメント。亀田宗一社長が自ら開発した低刺激性洗浄成分「ラウレス-3酢酸アミノ酸」を使っているもので、アトピーなど肌のトラブルで悩む人たちの間で厚い支持を得ています。

「以前に界面活性剤を使った洗浄剤の開発を行っていた時、私自身が肌荒れで悩んだことをきっかけに、肌に優しく安全な洗浄剤の開発に取り組み始めました。通常の業務外の研究だったので、帰宅は毎日午前2～3時でした」と語る亀田社長。着目したのは、アレルギーを起こさない「酢」でした。酢の主成分である酢酸を活かした洗浄剤の開発に成功するまでに、気がつけば10年。肌に安全・安心な製品であることを証明するため、学術的に細胞生存率を調べる皮膚刺激試験を実施し、硫酸系シャンプーと比較して驚くほど高い細胞生存率を示したことは論文にもまとめられています。スカルプシャンプートリートメントは、24時間ヒトパッチテストで低刺激は実証済み。頭皮につけてマッサージしても安全です。

香りは9種類あり、お好みのアロマを選べます。



モアコスメティックス株式会社

代表者名／代表取締役 亀田宗一
本社／堺市美原区木材通4-12-15
TEL／072-363-5151
設立／1995年
資本金／1,000万円
従業員数／49名
事業内容／医薬部外品の製造販売、
化粧品品の製造販売
<http://www.morecosmetics.co.jp/>

